

くらし・子育て・安心 予算

誰もが輝く地域社会づくりへの取り組み

西川区長は、2月14日、平成28年度荒川区議会定例会・2月会議の冒頭で、今後の区政運営の方向と平成29年度予算の編成方針・主要施策を示す、施政方針を述べました。

問合せ 総務企画課 ☎内線2111

昭和39年10月10日、爽やかな秋晴れの下、開会された東京オリンピックから、半世紀を経て再び東京大会が開催されるまで、あと3年半を切りました。社会経済情勢は当時と大きく変化し、多くの課題が顕在化してきました。特に懸念されるのが、医療や介護といった社会保障制度であり、それを支える「地域社会」であると考えています。

昭和39年当時の65歳以上の人口割合は6.2%でしたが、平成27年の国勢調査では26.7%と大幅に増加しており、平均寿命の伸びとも相まって、医療や介護等に要する社会保障費が増大しています。社会保障制度を持続可能なものとするためには、財源確保を含めた国による制度改革が必要であり、併せて、健康づくりの推進による健康寿命の延伸や医療費削減のための努力が欠かせません。

区では、区民の健康増進と介護予防のため、多くの事業を着実に推進するとともに、ジェネリック医薬品の利用促進による医療費の抑制にも積極的に取り組んで参りました。高齢になっても健康で、さまざまな形で社会に参加し、生きがいを持って生活できる地域社会を全力で進めて参ります。

折しも、日本老年学会と日本老年医学会

は、1月に高齢者の定義を75歳以上に引き上げるべきとの提言をしました。医療の進歩や健康意識の高まりから、65～74歳の方を「准高齢者」とし、社会の支え手として捉え直すべきだとしています。

区では、シニア世代の方が、防災・防犯活動をはじめ、子どもや高齢者の見守り活動等にご協力くださるなど、地域社会を支えています。

荒川区を「住みたい、住み続けたい」と言ってもらえるまちにするためには、これまで以上に区民が仕事や子育てはもちろん、地域の活動等にも主体的に参加し、一人一人が地域の中で光り輝くことが必要です。こうした活動の積み重ねが、魅力にあふれた温かい地域社会につながると確信しています。

平成29年度予算は、安全・安心なまちづくりをはじめ、くらしや子育て等に安心感を持っていただけるよう、限られた財源の中で、中長期的な視点も持って優先順位を熟考し、必要な事項を予算化したものです。

区民の皆様が、幸福を実感できる区でありたいということが、区長就任時から変わらぬ私の思いであり、平成29年度においても、前例にとらわれることなく、大胆かつ、きめ細かい施策の実施に努めて参ります。



▲施政方針を述べる西川区長

「区民の幸福実感の向上」という高い目標に対し、社会情勢の変化等を踏まえつつ、寸分も揺らぐことのない固い信念を持って、着実に歩んで参りますので、これまで以上のご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。
(要旨)

2・3面 平成29年度予算案・主な事業



平成28年度荒川区議会定例会・2月会議「予算に関する特別委員会」の総括質疑の様をCATVマイチャンネルあらかわ(地デジ11c h)で放送します

総括質疑とは、区議会の各会派を代表する議員が、あらかじめ割り当てられた時間内で区長等に質問をするものです。

期間 3月6日(月)～12日(日)

時間 ▶午前9時～11時
▶午後6時～8時 ※1日に2回放送

問合せ 議会事務局 ☎内線3616

3月8日に環境・清掃特集号を発行します